

インフルエンザ情報

国立感染症研究所感染症情報センター（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）は、「インフルエンザ流行マップ第05週（1月28日～2月3日）平成25年2月6日現在」を平成25年2月8日に公表した。

（コメント）

2012/2013年シーズンのインフルエンザの定点当たり報告数は2012年第43週以降2013年第4週までは増加が続いていたが、第5週の定点当たり報告数は35.82（患者報告数177,271）となり、前週の報告数（定点当たり報告数36.44）よりも減少した。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約208万人（95%信頼区間：193万人～223万人）と前週の推計値（約214万人）よりも減少した。年齢群別では5～9歳約33万人、10～14歳、30代がそれぞれ約26万人、0～4歳約24万人、40代約23万人、20代約19万人の順となっている。

都道府県別では新潟県（51.61）、愛知県（48.27）、愛媛県（45.26）、長崎県（43.33）、鹿児島県（43.28）、千葉県（42.53）、埼玉県（41.56）、沖縄県（41.28）、長野県（40.80）、宮崎県（40.66）、福岡県（40.54）、の順となっている。定点当たり報告数の全国値は減少したが、30道府県で前週の報告数よりも増加がみられた。

全国の保健所地域で警報レベルを超えているのは366箇所（全47都道府県）と増加し、注意報レベルのみを超えている保健所地域は176箇所（44都道府県）となった。

2012年第36週以降これまでの国内のインフルエンザウイルスの検出状況をみると、AH3亜型（A香港型）の割合が最も多く検出されている。詳細は感染症情報センターホームページ（<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html#graph>）を参照されたい。

なお、第01週～第05週までの都道府県別の定点当たり報告数の推移【感染症情報センター発表の「感染症発生動向調査週報」等を基に機構で作成】

※定点とは、発生動向調査の観測用に選ばれた医療機関のことで、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されています。

